

# 九州大学経営協議会議事録

日 時：平成27年1月22日(木) 13:00～14:30

場 所：九州大学 椎木講堂大会議室

出席者：27名中23名出席

## 【紹介】

文化勲章及び紫綬褒章の受章について紹介があった。また、新任の構成員及び役員等の任期更新について紹介があった。

## 【審議事項等】

### 1 中期目標・中期計画の変更について

"スーパーグローバル大学創成支援(SGU)「戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点形成(SHARE-Q)」"事業の採択に伴う目標達成に向けた中期目標の変更、並びに、SGUの目標到達に向けた取組、外国人教員の雇用を組織的に推進する取組、重要な財産を譲渡する計画、PFI事業、長期借入金及び収容定員を変更することについての中期計画を変更することについて説明があり、審議の結果、これを議決した。議決後総長から、本件は役員会において審議のうえ、文部科学省へ提出する予定であるが、今後、中期目標及び中期計画の趣旨に影響を及ぼさない範囲での変更があった場合は、一任いただきたい旨の発言があった。

なお、以下のような意見等があった。

- ・外国人教員の雇用について、現在どれくらい在籍していて、今後どこの部局をどれくらい増やすといった目標はあるのか。

昨年の総理の施政方針演説では、8大学について外国人教員を倍増することとされ、九州大学については文部科学省から現在の約200名を409名にするように言われている。全ての部局を対象に、部局間や大学間の交流協定等を基に対応していくこととする。

- ・8大学の中でも、優秀な外国人研究者の獲得競争が激しいのではないかと。九大ではどのようにして獲得していくつもりなのか。来て欲しい人に来てもらうことも難しいのでは。例えば九大からは出たくない優秀な人との交換など、身を削ることも考えなければならないのではないかと。思う。

大学間や部局間での交流協定のほか、主幹教授制度による海外からの優秀な研究者の招へいや世界のトップクラスの大学からのユニット誘致などにより外国人研究者の倍増に対応していきたい。1年間通じて来ていただくことの難しさもある場合はサバティカルを利用して例えば3ヶ月間来ていただくようなこともあると思う。

- ・九州大学としての海外戦略について、何か特徴などはあるか。

これまで九州大学はアジアを中心とした戦略を強めてきたが、これからはアジアも含めて例えば欧米やオーストラリア等に拠点を置くことなども検討しており、現在、国際戦略の策定を進めているところである。

### 2 平成27事業年度長期借入金の認可申請について

平成27事業年度の施設移転整備事業に必要な経費に係る長期借入金の認可申請を文部

科学省に行うことについて説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような意見等があった。

- ・借入の時期はいつの予定か。借入条件は認可条件となるのか。

については一括して平成27年のできるだけ早い時期に金融機関に提案していただくようお願いする予定。認可条件は金額の上限だけであり、借入条件は、九大と金融機関との協議となる。

- ・資料2の2ページの(3)から(6)に記載されているのは参考ということか。金利は固定となるのか。

借入先の は決まっているが、その他はこちらの希望や参考である。(4)の利率は公開していないので、参考としてTSR(東京スワップリファレンスレート)の金利を記載している。固定か変動かも含めて金融機関との協議により決まる。

- ・資料について、今説明いただいたことが書かれていないので分かりにくい。

今後、留意することとしたい。

### 3 基幹教育院手当について

平成26年11月25日開催の経営協議会(書面会議)で審議・議決した基幹教育院手当について、改めて説明があった。

### 4 役員の退職手当について

役員の退職手当に係る他の国立大学法人等の役職員との在職期間の通算について説明があった。

### 5 平成27年度予算の内示について

平成27年度の文部科学関係予算案、国立大学法人関係予算案及び本学の予算内示の概要について報告があった。

なお、以下のような意見等があった。

- ・資料5-3の2ページ目の下の方に学長のリーダーシップのための措置とあるが、この内容はどのようなものか。

年俸制の導入や外国人の雇用経費などのグローバル化に関するものなど学長が政策的に全学的に進める改革に関するものである。

- ・機能強化分を含めてもトータルでは減額となっており、毎年1.3%減額などが続けば大学運営が難しくなっていくのではないかと。九大としてはどのように対応していくのか。

10年間で約40億の減額となり本当に大変な状況である。経費の節減や効率的な運用のほか、競争的資金・外部資金の獲得や組織改革等に取り組みながら対応していきたい。ガバナンスの強化にも取り組みながら、人事、財務の両面で工夫していく。年俸制やクロスアポイントメントなども上手く使うなど、様々な制度を多様に組み合わせて経費削減につなげていくことも重要だと思う。

- ・運営費交付金以外の収入として、病院や授業料の自己収入、科研費のほかはどのようなものがあるか。寄附金などを集めるのは難しいと思うが、これからどうやって収入を稼いでいくのか。

研究関係では、共同研究部門や寄附研究部門などもある。また、外部資金の中でも科研費などの競争的資金の獲得は当然として、フリーハンドで使える間接経費を

いかに多く獲得していくかが重要。スーパーグローバル関係の補助金や国立大学改革のための補助金なども取りこぼしなく獲得していくことで大学のマネジメントに使える経費を確保する努力が必要。

国大協なども同じ認識だが、基盤的な運営費交付金を削減しないでほしいといった国に対する運動も必要だと考える。

- 6 第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方に関する検討会について文部科学省の「第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方に関する検討会」における検討状況や今後のスケジュール等について報告があった。

なお、以下のような意見等があった。

- ・国としては運営費交付金を減らす前提で動いていると思うが、国立大学法人が自前で稼ぐためにどのような方法があるか等について文部科学省では検討しないだろうから九州大学でそういった研究をしてみるのもいいのではないかと思う。
- ・深刻な状況だが、新総長には、九州大学としてのビジョンをもって積極的に取り組んでいただきたい。

#### 【その他】

- 1 次回の開催について

次回は平成27年3月19日(木)に、経営協議会及び終了後に懇談会を開催予定である旨の案内があった。

( 以 上 )